

◇ 新刊紹介

福井県歯科医師会史

——二年がかりの労作——

このほど福井県歯科医師会（福井市大願寺三丁目）が、六〇周年記念事業として、同会の詳しい歴史過程を一本にまとめた会史を刊行した。会史編集委員会（委員長、白崎源有氏）のもとで、実際の資料調査や執筆は、地

域の歴史研究家田中明氏が担当し、約二年がかりで編集した一大労作である。

内容構成は、1、歯科医師の誕生―明治―2、福井県歯科医師会の設立―大正―3、昭和初期の県歯科医師会、4、日中戦争下の歯科医療、5、太平洋戦争とともに、6、廃虚のなかから、7、確立した県歯科医師会―戦災・震災・分裂を乗り越えて―8、前進する県歯科医師会、9、創立五〇周年を迎えた県歯科医師会、10、会館・大願寺原頭に建つ、11、創立六〇周年の県歯科医師会、の一章からなる。そして県下の歯科医が地域医療、学校保健、保険医療、さらに日進月歩の現代医療の学術研修に懸命に取り組んできた足どりを、きわめて丹念に追及するが、その間とこるところに興味ぶかいエピソードを織りまぜるなど、読者に対する格別な配慮が払われている。

何分県下の最大の資料源ともいえる福井市や敦賀市が第二次大戦で被災したため、県外や中央資料の探索・収集にいたく苦労したことを田中氏は回想する。近年医療問題がきわめて重視されるなかで、同会史の発刊は、は

なはだ時宜を得たものといえる。田中氏が「あとがき」で、「大正八年（一九一九）、わずか一九名の歯科医師たちによって発足した福井県歯科医師会が、後進的な本県にあって、歯科衛生の普及と医療の発展に、まさに信義と友情をもって団結し、幾多の困難を克服しながら繁栄の歴史を創りあげてこられたことに、ペンをとった私には驚異のほかはありませんでした。」と述べるところは、まさしく会史発刊の重要性を端的に表明するものとして大いに注目したい。（限定版 六〇八頁）

（三上一夫記）